

分布：全国

## スギナ (トクサ科)

学名：*Equisetum arvense*

### 杉菜

別名：ツギツギ、ツギナ、ツクシ、ツギマツ、ホタルグサ、ボンボングサ など

#### 主な生育場所

畑や果樹園、田畑の畦、路傍、庭先、休耕地、土手、法面の草地など、乾いた場所からやや湿った場所まで里地の至るところに生える。時折冠水するような場所でも生育可能である。

#### 特徴

地中に長い地下茎を伸ばして繁殖する多年生のシダ植物。地上茎には栄養茎と孢子茎(ツクシ)とがある。春先にまず孢子茎が伸び、先端に孢子囊穂をつけ、孢子を散布後、すぐ枯れてしまう。栄養茎は高さ30-60cmほどになり、上部の節に多数の枝が輪生する。栄養茎も秋遅くには枯れてしまい、地下茎で越冬する。

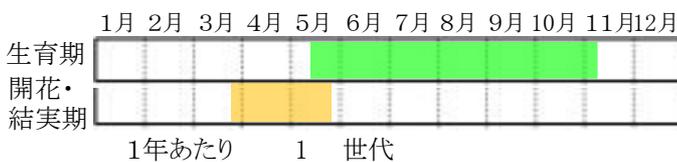


名前の由来：栄養茎がスギの葉のように見えたことからスギナ。また、別名のツギツギとは、節のところから抜いて継ぎ足しできることから。ツクシはスギナの地下茎とつながっていることから「付く子」。

#### <農業との関係>

地下茎は各節から数本の根を出しながら深さ30-1m、長さ2-5mに達し、生活力が非常に強いので、除草剤も効きにくく、畑に侵入すると強害雑草となる。肥沃地ほどよく生育し、中性からアルカリ性土壌を好むが、酸性土壌でも生育可能である。除草剤による管理を行っている畦畔においても、駆除しにくいために優占しやすく、耕地内外を問わず、はびこると根絶することが難しい雑草である。

#### <生活史> 関東地方の例(目安)



孢子茎(ツクシ)

<類似種> 水辺に生育する同属のトクサは、茎が太く草高も1m近くとなる大型の草である。また陽当たりのよい湿地に生育するイヌスギナは、スギナによく似るが、やや大型で栄養茎と孢子茎の区別はなく、栄養茎の先に孢子囊穂を付ける。

#### <一言うちく>

シダの仲間是最も古くから地球上で繁栄してきた植物ですが、その中でもトクサ科は約3億年も前から見られました。スギナは、その頃から今日まで絶滅せずにと残ってきた植物であり、だからこそ農地に入り込むと防除が厄介となるほどたくましいのです。



#### <人との関わり合い>

ツクシは早春の風物詩として、古来から親しまれ、また食材としても利用されてきた。この食材としてのツクシを摘む様子も、多く和歌や俳句などに詠まれてきた。ツクシの食べ方としては、和え物や天ぷらなどがある。また、栄養茎も若芽は佃煮などの食用となり、全草を天日で乾かしたものは生薬「問荆(もんけい)」と呼ばれ、煎じたものはスギナ茶として利尿、腎炎などに薬効がある。栄養茎には珪酸も多く含まれるため、歯磨きにも利用されることがある。

#### <俳句や短歌への登場>

【季語:春】

つくづく摘みて帰らぬ煮てや食はんひしほと酢とにひでてや食はん(正岡子規)

畠打や子が這ひ歩くつくし原(小林一茶)

ゆららかや杉菜の中に日は落つれ(芥川龍之介)